

[水田作部門]

1. 「朝日」の良食味が期待できる登熟期の葉色

[要約]

「朝日」は、出穂から出穂 10 日後までの葉色が SPAD 値で 35 程度、出穂 20 日後が 33 程度、出穂 30 日後が 28 程度を超えない場合は、食味値 80 以上の良食味が期待できる。

[担当] 作物・経営研究室

[連絡先] 電話 086-955-0275

[分類] 情報

[背景・ねらい]

県中南部の主要品種「朝日」は、近年、異常気象による品質や食味の低下が懸念されている。そこで、良食味となる葉色の推移を明らかにし、今後の肥培管理の適正化に資する。

[成果の内容・特徴]

1. 食味値 (HON) は登熟期の葉色が薄いほど高い (図 1)。
2. 葉色の濃さに年次間差はあるが、出穂から出穂 10 日後までの葉色が SPAD 値で 35 程度、出穂 20 日後が 33 程度、出穂 30 日後が 28 程度となる場合には、食味値が 80~90 となりやすい (図 2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 葉色は SPAD502 指示値、食味は NIRS-6500 の HON 値である。
2. 県中南部の 6 月中~下旬移植栽培に適用できる。
3. 「朝日」は、籾数が 24,000 粒~29,000 粒/m²程度であると収量は 500kg/10a 以上、未熟粒率は 20%以下となりやすい。この範囲で上記の葉色を超えないように推移させると収量を確保しつつ、高品質、良食味となることが期待できる。

[具体的データ]

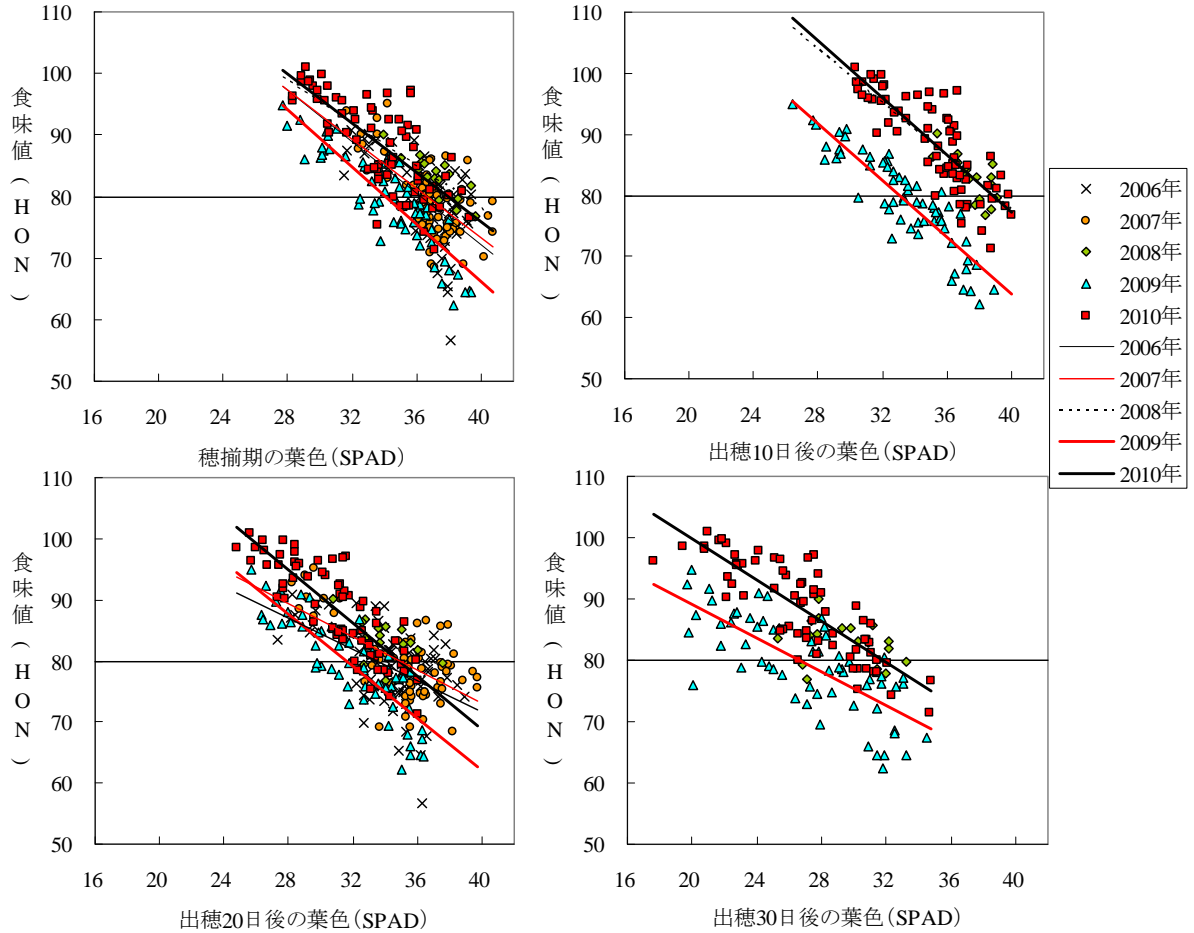


図1 葉色 (SPAD 値) と食味値 (HON) の関係 (2006 年～2010 年)

注) 葉色と食味値の相関係数が1%有意である年次について回帰直線を示す

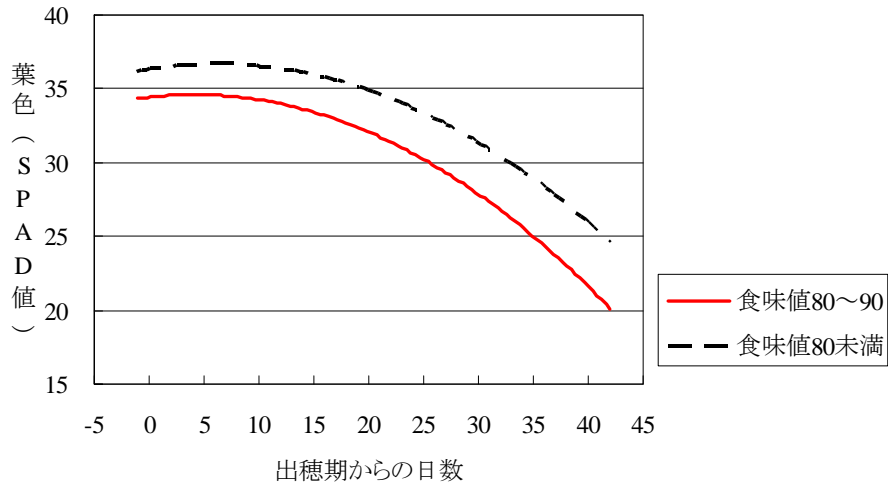


図2 食味値 (HON) 80～90 となる登熟期の葉色 (2006～2010 年)

[その他]

研究課題名：温暖化に対応した水稻「朝日、ヒノヒカリ」の良食味栽培技術の確立
温暖化に対応した水稻の品種選定と栽培技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2009～2010 年度

研究担当者：宮武直子・井上智博

関連情報等：平成 21 年度試験研究主要成果、7-8、9-10